

NPO法人アンド・ユー 定 款

第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 この法人は、NPO法人アンド・ユーという。

(事務所)

第 2 条 この法人は、主たる事務所を岡山県倉敷市に置く。

第 2 章 目的及び事業

(目的)

第 3 条 この法人は、女性及び社会的弱者とその家族に対して、孤立することがないように、地域社会との連携を取りながら安全の確保、傷ついた心のケア、就業支援などに関する事業を行い、これらの者の安全と福祉、健康の増進を図り、全ての人々が安心して生き生きと暮らせる社会づくりに寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (4) 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- (5) 子どもの健全育成を図る活動
- (6) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (7) 前各号の掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第 5 条 この法人は、第 3 条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 女性及び社会的弱者に対する相談及びケア事業
- (2) 女性及び社会的弱者の自立支援事業
- (3) 一時保護シェルター事業
- (4) 関連諸機関との連携、連絡、協議に関する活動、政策提言に関する事業
- (5) 福祉タクシー事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正 会 員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業に賛助するため入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
 - (2) 監事 1人以上
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (2) この法人の財産の状況を監査すること。
- (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
- (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 第1項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とする。
- 4 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 5 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関して必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。

2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総 会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び活動決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも総会の日5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

- 第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。
- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、前条第2項、次条第1項第2号及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 正会員総数及び出席者数(書面表決者又は電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあつては、その数を付記すること。)
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名押印しなければならない。
- 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があつたとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 総会があつたものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があつたものとみなされた日
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第6章 理 事 会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があつたとき。
- (3) 第15条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があつたとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも理事会の日の3日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

- 第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。
- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条第2項及び次条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者又は電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁の変更を伴うものに限る。）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（定数に係るものを除く。）
- (7) 会議に関する事項

- (8) その他の事業を行う場合における、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。）
- (10) 定款の変更に関する事項

（解散）

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産手続開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第53条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残余する財産は法第11条第3項に掲げる者のうち、解散総会で決定した団体に譲渡するものとする。

（合併）

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

（公告の方法）

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人の主たる事務所の掲示板に掲示して行う。

第 10 章 雑 則

(細則)

第 56 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	佐渡島 直 美
副理事長	佐渡島 健太郎
理事	蓑 田 孝 子
理事	安 井 美 耶
理事	古谷野 寿 都
監事	文 箭 正 美

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から令和 8 年 5 月 31 日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第 44 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第 49 条の規定にかかわらず、成立の日から令和 8 年 3 月 31 日までとする。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

- | | |
|-------------|------------------|
| (1) 正会員入会金 | 0 円 |
| 正会員会費 | 3, 000 円 (1 年間分) |
| (2) 賛助会員入会金 | 0 円 |
| 賛助会員会費 | 1, 000 円 (1 口) |

(縦覧用)

役 員 名 簿

NPO法人アンド・ユー

No.	役職名	フリガナ 氏 名	住 所 又 は 居 所	報酬の有無
1	理事長	サドシマ ナオミ 佐渡島 直美	非公表	無
2	副理事長	サドシマケンタロウ 佐渡島健太郎		無
3	理 事	ミノダ タカコ 蓑田 孝子		無
4	同	ヤスイ ミヤ 安井 美耶		無
5	同	コヤノ ヒサト 古谷野 寿都		無
6	監 事	ブンヤ マサミ 文箭 正美		無

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

【現状の把握】

日本においては、高齢者社会の進行と共に、老人および障害者への支援の必要性がますます高まっています。政府や自治体を中心に、さまざまな制度やサービスが整備されてきましたが、現状ではなお多くの課題が存在しています。DVに関しても未整備であり、多くの課題が残っています。

【問題、課題】

- ・制度の複雑さにより支援制度がわかりにくく、必要な人に情報が届いていません。
- ・障害者や高齢者に対する無理解・差別的言動が見受けられます。
- ・「できない人」としての固定概念が根強く、就労機会が不足しています。
- ・障害者や高齢者の家族だけがサポートを担う場合、身体的・精神的・経済的負担が大きい故、鬱の増加につながっています。

【問題に対する解決策、目指す社会】

下記の取り組みを通して、高齢者や障害者及びその家族がより安心して暮らせる社会を目指します。

- ・ワンストップ相談窓口の設置
- ・支援制度のデジタル化、見える化
- ・支援者による個別サポート
- ・学校教育や地域での啓発活動（共生社会の理解促進）
- ・高齢者・障害者自身の自己発信支援
- ・メディアや企業によるインクルーシブな取り組みの拡大

【法人格が必要な理由】

当事者の声を反映させた支援体制の構築と、地域・行政・民間の連携が必要です。また現場の実績に即した柔軟な支援と、社会全体での共生意識醸成も不可欠です。そのため、法人格を得て法的な責任の範囲を明確にし、法的・社会的に安定した活動基盤を確立し、より大きな信頼と支援を得ながら継続的な非営利活動を展開できるようにする必要があります。また企業からの支援拡大にもつなげやすいと思います。

2 申請に至るまでの経過

悩みを抱え、どこへ相談したらいいのか、誰に聞いてもらったらいいのか、わからないまま不安を抱えておられる方にたくさん出会ってきました。DV被害を受けているという相談を受けたときはシェルターを紹介し、他の相談についてもそれぞれの窓口を紹介してまいりました。

常日頃から助けを必要とする人々に対して何か支援できればと思っていましたので、この機に法人を設立し、助けを必要とする方々へのサポート体制を整えたいと思いました。相談窓口がある事をわかりやすく示し、二次被害が起こらないよう手厚く的確な支援を行える状態をつくっていきたいと思っています。また他の特定非営利活動法人ともネットワークを組んで連携を取り協力し合いたいと考えています。

平成30年8月	DV被害者からの相談を受けシェルターを紹介
	以降、相談を受け対応してくれる窓口を紹介
令和7年	NPO法人化に向けた設立総会を開催

令和 7 年 9 月 9 日

NPO法人アンド・ユー

設立（代表）者

佐渡島 直美

令和7年度事業計画書

法人成立の日から令和8年3月31日まで

NPO法人アンド・ユー

1 事業実施の方針

社会的に孤立し苦しんでいる人に、気軽に相談できる窓口がある事を知ってもらえるよう努める。一度相談を受けたら安全確保を第一に行い、関係各所との橋渡しをしてその人が安心して生き生きと暮らせるような状態になるまで見守り相談に乗り続ける。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定 日 時	実施予定 場 所	従事者の 予定人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支 出 見込額 (千円)
女性及び社会的弱者に対する相談及びケア事業	電話による 相談対応	毎日 10:00～ 20:00	事業所	2名	県内の女性及び社会的弱者 1日5名	72千円
女性及び社会的弱者に対する相談及びケア事業	希望者に対する訪問	希望日	相談者の自宅	2名	県内の女性及び社会的弱者 1日1名	0円
福祉タクシー事業	福祉タクシーでの送迎	毎日 10:00～ 20:00	希望者の自宅から希望の場所	2名	県内の女性及び社会的弱者 1日1名	60千円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施予定 日 時	実施予定 場 所	従事者の 予定人数	支 出 見込額 (千円)

令和8年度事業計画書

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

NPO法人アンド・ユー

1 事業実施の方針

社会的に孤立し苦しんでいる人に、気軽に相談できる窓口がある事を知ってもらえるよう努める。一度相談を受けたら安全確保を第一に行い、関係各所との橋渡しをしてその人が安心して生き生きと暮らせるような状態になるまで見守り相談に乗り続ける。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定 日 時	実施予定 場 所	従事者の 予定人数	受益対象者の 範囲及び 予定人数	支 出 見込額 (千円)
女性及び社会的弱者に対する相談及びケア事業	電話による相談対応	毎日 10:00～ 20:00	事業所	2名	県内の女性及び社会的弱者 1日10名	120千円
女性及び社会的弱者に対する相談及びケア事業	希望者に対する訪問	希望日	相談者の自宅	2名	県内の女性及び社会的弱者 1日2名	0円
福祉タクシー事業	福祉タクシーでの送迎	毎日 10:00～ 20:00	希望者の自宅から希望の場所	2名	県内の女性及び社会的弱者 1日1名	120千円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施予定 日 時	実施予定 場 所	従事者の 予定人数	支 出 見込額 (千円)

設立当初の事業年度 活動予算書
法人設立の日から令和8年3月31日まで

NPO法人アンド・ユー
(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	30,000		
賛助会員受取会費	5,000		
		35,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	0		
施設等受入評価益	0		
		0	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	0		
		0	
4. 事業収益			
福祉タクシー事業収益	240,000		
		240,000	
5. その他収益			
受取利息	0		
雑収益	0		
		0	
経常収益計			275,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	0		
施設等評価費用	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
通信費	72,100		
車輛経費	60,000		
その他経費計	132,100		
事業費計		132,100	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費			
旅費交通費			
減価償却費			
諸謝金	140,000		
その他経費計	140,000		
管理費計		140,000	
経常費用計			272,100
当期経常増減額			2,900
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益			
		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損			
		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			2,900
設立時正味財産額			0
次期繰越正味財産額			2,900

令和8年度 活動予算書
令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

NPO法人アンド・ユー
(単位:円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	30,000		
賛助会員受取会費	5,000		
		35,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	0		
施設等受入評価益	0		
		0	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	0		
		0	
4. 事業収益			
福祉タクシー事業収益	480,000		
		480,000	
5. その他収益			
受取利息	0		
雑収益	0		
		0	
経常収益計			515,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	0		
施設等評価費用	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
フリーダイヤル使用料	120,000		
ガソリン代、車メンテナンス費	120,000		
その他経費計	240,000		
事業費計		240,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
諸謝金	50,000		
その他経費計	50,000		
管理費計		50,000	
経常費用計			290,000
当期経常増減額			225,000
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益		0	
.....			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損		0	
.....			
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			225,000
前期繰越正味財産額			2,900
次期繰越正味財産額			227,900